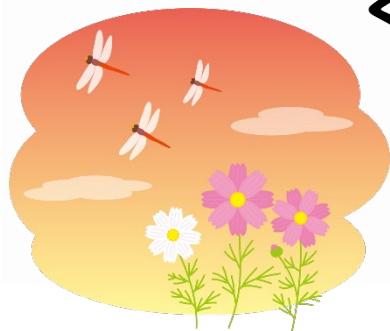


WITH  
YOU!  
more

MAZROC COMMUNICATION MONTHLY 編集発行 総務部



## 【 ミライのマネジメント 】

新型コロナの感染状況は、8月末時点において日本だけでも感染者数約6万8千人、死亡者数約1300人に昇り、世界的な規模で自粛やソーシャルディスタンスを余儀なくされ、経済活動に大きな影響を与えています。

以前に、生産性の向上に向けて「ワークライフバランス」の見直しの取組みをご紹介しました。しかし、新型コロナの猛威は、ワークスペースの分散やニューノーマルという新しいスタイルを生みワークライフの価値観を大きく変えました。

マネジメントスタイルも、機械的な仕事（コントロール）から意味付けする仕事（センスメーカー）への移行が求められているところです。

一方、人工知能（AI）は、五感を活用して高度な判断をする「マルチモーダルAI」の開発や140文字の短文投稿サイト「ツイッター」の情報から、知性や性格、精神状態、生活習慣、人生の満足度など人々の内面を表す23種類の特徴を見抜く実験に成功（日経新聞8月30日付）したことなど飛躍的に進歩を続けています。

博報堂生活総合研究所が予測や目標・計画などをまとめた「未来年表」（以下抜粋）では、

- 2025年 製造現場に頭脳ロボットが普及
- 2029年 AIが知能と感情を持つようになる
- 2032年 ロボットが精神面で人間を上まわる
- 2035年 ロボットの労働力が人間を上まわる
- 2050年 コンピューターがどのように結論を導いたか誰も知ろうとしなくなる

など、SF小説や映画などで観た空想の技術は、第四次産業革命（インダストリー4.0）のもとで実現のものとなりつつあります。近い将来、従来の機械的な仕事である事務労働・知的労働はAI（ロボット）に代替される時が来ます。

当社は、創業からの「協調互敬の精神」を守りお得意先様やお取引様とのアライアンスを進め、積極的に新しい市場の開拓や商品の開発をおこなってまいりました。

お陰様で来年の3月に100周年を迎えることができます。これも一重にお得意先様とお取引様のご指導の賜物と感謝しております。

そして、次の100年を迎えるためにやるべきことは、AIの進歩やニューノーマルなどの社会環境の変化に合わせたマネジメント力の強化とそれら新しいニーズに沿ったサービスの提供や商品開発と捉えています。

今後のマネジメントにおいて大切なことは、アライアンスを組むパートナーの皆様や働く仲間と同じ方向性を持って進んでいくための「共感」を生み出すことです。

現在、テーマとして取り組んでいる「やらされ仕事から脱却し、自発的にやってみよう業務の推進」は、PDCAを確実にこなうことで働く仲間「意味を知らせる」ことが習慣化されてまいりました。徐々ではありますが「共感の輪」が広がり、個々のモチベーションの改善とマネジメント力の強化につなげております。

当社は、新しい時代に向け、お客様や共に働く仲間と共感していただけるサービスや商品の提供を目指し「ミライのマネジメント」を進めてまいります。

今後も、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

取締役  
開発本部 副本部長 開発企画部長兼務

木村 俊裕